第169号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館

毎月1回15日
定価 1部 5円

なかさと

8月1日現在	
人口	7,785(＋ 4)
男	3,856(－ 5)
女	3,929(＋ 9)
世帯数	1,731(－ 3)

カッコ内は前月との比較

中里村議会臨時会開く
―収入役を選任―

中里村議会第三回臨時会が去る八月三日招集され、会期一日で、助役、収入役の選任、村内各事業請負契約等が審議された。付議事件の主な内容は次の通り。

▼助役、収入役の選任について

助役については、四十五年一月から空席となっており、今回村長より、中里村助役に中里村大字田沢癸四七八、小林豊政氏を選任したいから、地方自治法第一六二条の規定により、議会の同意を求められたが否決された。

収入役については、前収入役藤田宇一氏（宮田）が七月三十一日をもって辞任されたので今回村長より十日町市昭和町一丁目、上原隆平氏を選任したいから、地方自治法第一六八条第七項の規定により、議会の同意を求め、同意を得た。

▼村内各事業請負について

地方自治法の定めるところによる事業費一千万円以上の請負契約の議決を求めたものでいづれも提案通り議決された。

その事業は、新屋敷地区圃場整備一千三百九十四万円、民有林作道開設事業角間線一千六十万円、中里村立倉俣小学校新築三千八百三十万円、貝野地区簡易水道工事一千三百二万七千円である。

尚八月十日付にて次の通り庁内人事異動が行なわれました。

志田行政課長 社会厚生課長に

鈴木収入役室長 行政課長に

村山事務局長 収入役室長に

山田社会厚生課長 事務局長に

桑原主事 税務課長に

斉藤俣育所長は八月十二日付にて辞任されました。

収入役新任の挨拶

上原隆平

八月三日開会された、村議会のご同意をいただきまして、このたび収入役を命ぜられました。私は昭和二十四年以来村の職員として、いくつかの仕事を担当して参りました。この間、村民の皆さんから何かと御指導をいただき、ご協力を得ましたことを心から感謝申し上げます。

新しい仕事については、経験もなく、何か不安な気持でありますが、日一日と勉強を重ね、事業量の増加と近年の経済成長の反映から、年々増加の一途を辿る、村の予算一般会計にあっては、今年度当初既に三億円を上回り、この外、特別会計もいくつかありますが、これらの会計ごとに、これを良く勉強して取扱い、この職務に万全を期し村の発展に微力をつくしたいものと、心しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

退任の挨拶

藤田宇一

豊穣の秋を迎え、村民の皆様には、愈々御健勝にてお過しのこととと、お喜び申し上げます。

私儀

昭和四十年五月収入役に選任されまして五年二ヵ月で、去る七月三十一日を以ちまして退職いたしましたので「なかさと」の紙上をかりて御挨拶させていただきます。

もとより、その器ではありませんでしたが、在勤中は皆様方より、公私に亘り格別な御指導と御協力を賜り、お蔭様で大過なく今日を得ましたことを、有りがたく感謝いたしますと同時に厚く御礼を申し上げます。

申すまでありませんが、地方自治も年々振興し行政水準も高まりつつあり、御同慶に存じますが更に、七十年代での課題が沢山あることと考えられ、長期的展望に立って地域及び社会の開発が行なわれ、豪雪寒村と、都市との格差是正や、過疎対策によりまして、住みよい環境作りと、財政運営の健全かつ合理化等を図られ、夢と希望のもてる村として一層発展されますよう願ってやみません。

村民の皆様はじめ議会の議員各委員会関係御当局の皆々様の御厚情と御期待に添え得ず、任期中途で離任いたしますことは不本意ではございますが、何卒諸般の事情を御賢察下さいまして、御容赦下さるようお願いとお詫びを申し上げます。

なお今後共、倍日の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に失礼でございますが、皆様の益々御多幸をお祈りいたしまして、簡単ではありますが退任の御挨拶といたします。

中里村地域子供会リーダー研究会開く

中里村子供会育成連絡協議会が四十五年七月六日に発足をし会長に議会議員服部武男氏（小原）副会長に吉梁喜一氏（山崎）監事に服部喜一氏（如来寺）が選任されました。現在、中里村子供会は十一あり（芋沢、田沢、如来寺、上山、桂、小原、山崎、荒屋、田代、田中）今回八月十八日、十九日の二日間子供会のリーダー研修会が清津峡において開かれた。参加数、世話人を含め五十八名参加し盛大なるリーダー研修会が開かれました。尚中里村は、青少年健全育成総合対策実施の指定村になっており、この中心目標としての「青少年に正しい情熱の焦点をつくらせる」ということに大なる効果があるものと思われます。又現在子供会の出来ていない部落にも事務局は積極的に呼びかけておりますので全部落に発足させ情熱の焦点を、青少年に持たせるよう御協力願います。

又八月二十二日夜より、二十五日まで、中里村青少協と、公民館共催で、各子供会を中心に、映画会が行なわれました。題は「見なおせ子供会」他二巻。

ミニレターで季節のたよりを

友人、知人や遠くに離れた親せきから四季おりおりのたよりを受取ることは、大変うれしいものです。あなたの方からもお友だちなどを喜ばせてあげてはいかがでしょう。

郵便局に「ミニレター」という便利なものがあります。

"切手つきの便せん"スタイルで一枚十五円、官製はがきのおよそ三倍ぐらい書くことができます。

通信文は内側に書いて折りたたみ、封をして出すことになっていますから、まったく封書と同じです。また金額の重さが一〇g以内ならば写真なども入れられます。

お盆にあたり
無常観を思う

斉藤大馨

八月ともなれば、雲の峰もいつしかくずれ、いまに秋風が田面原野を吹きぬけるだろう。まことに諸行は無常で、仏教の無常観は、縁起観と表裏一体になり、世界観を形成している。諸行無常、諸法無我、ネハン寂静の三法印である。

この無常観が往々にして、世俗的な「あきらめ」となり、本来の精神が失われている。方丈記に一行く河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず淀みに浮かぶ泡沫は、かつ消えかつ結びて久しく止まりたる例なし。世の中にある人と住処とまたかくの如し。知らず、生まれ死ぬる人、何処より来たりて、何処へか去る」といっている。

人生朝露の如し、とはよくいわれるが、露がおちて花の残るときもある。残った花も朝日にしぼんで、露が消えなくとも夕べを待つことはない。こういう諸行無常を、どういただくが問題である。

若い世代の多くは、センチで甘美なものとして、壮年以上はかんたんに「あきらめ」ているともにきびしい現実から逃避している一点にはかわりはない。自分の思うようにならないとすぐ投げ出してしまう。現実をして現実を語らしめるのが仏教である。

思うようにならなかった原因は、どこにあるかと、あくまで現実を究明して、真相を明らめることである。世俗にいう「あきらめる」とは、およそ次元がちがっている。どこがちがうか世俗のそれには、原因究明の四諦がない。

四諦は釈尊が、人間苦を解脱するために説いた実践の道程である。別に諸行無常は仏教によらなくとも、誰しも感じているしかし無常観の苦悩の底に、私の無明と底の知らぬ我執を明らかにしたのは、釈尊以外にはない。

いうまでもなく四諦とは「苦集・滅・道」で、諦はものの道理をさしている。生あるものは必ず死がある。死なないものは生きているとはいえない。釈尊が人生を苦と断じたのは、相対的な矛盾ではなく、こういう動きのとれぬ絶対的な矛盾である。

苦諦は一切皆苦の道理をあらわしている。集諦はその苦がどうして引き起こされるか、根本原因は私の底知れぬ渇愛にあることを明らかにした。滅諦は渇愛を転じたネハンの世界で、絶対自由の境地である。道諦はネハンへの正しい八つの修行方法をさしている。金剛法座ときとり開かれたのは、四諦、八正道、十二因縁だとされている。いわば仏教の正念場は、諸行為常を通じた生死の解脱にある。四門出遊の伝説も、これと軌を一つにする。

諸行が無常であればこそきょう一日がいいかげんに暮らせないぞ。きょう一日は私の一生に二度とこない、一回限りのきょうのこの日である。きょうをとことん生かしたい。われ十二時をつかい得たりの主体制をもとう一瞬一瞬、体あたりで玉砕してゆくそのままが、永遠のいのちであることになってわかることで観念の世界ではない。

無常を甘美に受けとるところからは、なに一つ新しいものは出てこない。無常をかんたんにあきらめるところには、決して現実の打開はあり得ない。仏教ではこれを「段落無常」といい建設的な「削那無常」と、ハッキリ一線を画している。

魂棚の奥なつかしや親の顔

〈村の伝説〉
腹切り田（桂）

今から百四、五十年ほどむかし、大凶作がつづいたとき、桂部落におこった話である。

凶作のため人々はたべるものがなくなり、木の葉や、草の根をたべてようやく命をつないでいた。しかし、やがてくる冬をすごすあてがない。このままでは死をまつばかりである。なんとか、この場を切りぬける方法はないものかと、部落の主達（おもだち）は心配したが、どうにもならない。そこで一人の人が、隣村の庄屋は金持ちだからカネを借りて、急場をしのごうということで、三年たったら必ず返すという約束でカネを借りてきた。おかげでどうにか飢え死するとなく冬をすごすことができた。ところが、次の年も、その次の年も凶作がつづいてとうとう約束の三年がきてしまった。庄屋は約束どうり、さいそくにやってきた。

「約束の期限がきたから返してもらいたい。」

「旦那さま、ごらんの通りの不作つづきで食うこともできません。一生のお願いだから、もう二年ほど……」とムシロに頭をすりつけ、返済の延期を頼みこんだ。

「ならぬ、わしだって、ただで貸したカネじゃねえ。もうこの上二年とは何ごとだ。カネがなければ、お前たちの土地はみんなもらっておく」と、ムシロをけたてて帰ってしまった。

あとに残った村人たちは、無慈悲な庄屋の仕打ちにボウゼンとし、声を出すものもない。そんなことがなんどかつづき、やがてその年の暮れ近く、阿寺の山が白くなりはじめたある晩。

部落はひっそりと静まりかえっていた。突然けたたましくホラ貝なりひびいた。村人は何ごとがおきたのかと、とるものもとりあえず、惣代の家へかけつけた。集まった人々の目は異様にかがやき、ただうむいてため息をつくばかりである。それもそのはず、庄屋から最後の返済のさいそくがあったのだ。

その時、静かに顔をあげた人がいた。部落きっての旧家の主人で、いつも村のために骨身をおしまずよく面倒をみ、村人から敬まわれている樋口兵左衛門という人である。

「みなの衆、こうして毎日仕事に手がつかず、時をすごしていてもますます苦しくなるばかりだ。たいじな田畑をオメオメ取上げられ、虎の威をかる狐使いどもにまでのさばられるのは残念だ。この上いくら大勢でたのんでも無駄だから、この際ワシにまかしてくれねえか。どうだ、命にかえても引受けるから。」頭を下げてきていた人々は、万策つき途方にくれていたときだから、涙を流し手を合せておがんだ。翌晩のことである。庄屋の家では、桂部落の悲しみも知らぬげに静かに寝しずまっていた。そこへ、どこからどうして入ってきたのか、黒覆面の男が足音をしのばせ、主人のねている枕もとにしのびよると、ふとところにかくしもっていた脇差しで、主人の胸もとめがけて、「エイッ」とつきさしそのまま逃げ去っていった。ところが、当の主人は、常々人にうらまれていることを知っているので、こんなこともあろうかと、人形をフトンの中に入れ、自分は召使いの部屋にねていたのである。黒覆面の男は、桂部落への道を一目散に走り、やがて部落へ入ると、誰も追いかけてこないのをたしかめてから覆面をぬいで汗をふいた。なんとその人は樋口兵左衛門である。兵左衛門は、ベッタリと田んぼの上に坐って、

「ご先祖さま、部落のために庄屋どんを殺してきました。これで村も救われるだろう。オレのつとめは終った。みなの衆、仕合せに暮してくれ」と、いい終るやいなや、腹をかき切って死んでしまった。

兵左衛門の死をきいて、庄屋は自分のやり方が悪かったことを後悔した。兵左衛門をねんごろにとむらうとともに貸したカネの返済は、いつでもよいということにしたうえ、文化十三年、桂の鎮守さまに、立派な階段と石橋を寄進した。兵左衛門が腹を切ったところは、そののち腹切り田とよばれ、そばに石橋供養塔とほった石碑がいまもたっている。

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落名
富井八重子	保夫	田中
服部さゆり	義定	如来寺
村山 章子	悦夫	上山
服部亜弥子	龍男	田沢
鈴木ちくら	国一	重地

◎高砂

〈新郎南雲 昭次(三三)本屋敷
新婦井ノ川ミイ子(三三)如来寺〉

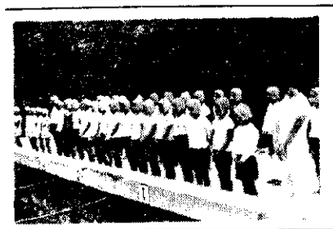
〈新郎 久保田孝一郎(二九)津南
新婦 鈴木 照子(二四)重地〉

◎昇天

氏名	年令	部落名
吉梁 福一	(三三)	宮中
村山 謙三	(八八)	程島
川田 正元	(四七)	千溝
山田 トヨ	(七四)	清田山

田沢地区 家庭教育学級

家庭教育学級という名称は、婦人学級、社会学級等の名称と異なり、学習内容そのものの名称であって、両親その他、親に代わる年長者たちが、家庭で子どもの教育をする場合の心がまえとか、子どもの扱い方、教育上の留意点など、家庭教育上の共通の問題を学習する場として開設されたものです。したがって学級生は、両親またはそれに代わる年長者および家庭教育に関心をもつ一般成人で、学習内容は、家庭の機能と教育的役割、親の教育上の責任と態度、子供の発達段階と性格形成、しつけの問題等、家庭教育に関するものとなります。この家庭教育学級は、昭和三十九年度から開設されたものです。実は、家庭教育に関する学習は従来から市町村や婦人団体が開設する婦人学級、社会学級その他の講座やPTAの両親学級で行なわれていたものです。にもかかわらず、家庭教育学級が特設されたのは①婦人学級、社会学級、その他の講座では、家庭教育に関する学習が全体の二十%にも満たないこと。②既存の学級講座においては、その目的、性格からして、家庭教育のみに重点を絞ることは困難であること。③学習に参加する人びとが、成人全体からみると少数であるばかりでなく、婦人層が中心であるという実情などから、とくに家庭教育学級を開設して、母親に限らず広く父親の参加も求め、成人教育の場の拡大を図ろうとしたこと。などの理によります。そこで田沢地区家庭教育学級の四十五年度のもちかたは、月に二回もつ時間は二時間くらい、原則として夜ひらく。但し講師を遠くから、おまねきする時など講師の都合で昼ひらくこともある。（昼の場合は午后二時から四時）夜の場合は午後七時半から九時半（季節によってかわりますのでお含みください）場所は田沢小学校家庭室、開設期間は四十五年四月から、四十六年三月までとしています。次回家庭教育学級は九月二十二日に勤労教育についてどういう学習の題目で県より講師に丸山先生をおまねきして行なわれます。



【写真はありし日の家庭教育学級の一コマです】

貝野小中学校 プール開き行なう

去る七月二十一日午後三時より、貝野小中学校のプール開きがおこなわれた。毎年夏になると、子供の水死事故が多発しゆるがせにできない、大きな社会問題になっており、そういたいまわしい交通事故から子どもを守り、暑い夏を健康に、しかも安全にたのしく過させたいという地域住民からの強い要望で、高橋総工費七百一万三千円で、高橋工務店により出来あがったものであり、当日は十日町水泳部の人達の模範水泳が披露され、多数の見物人の中のおかあさん方は、これで心配ごとが一つ減ったとよろこび語っていました。

忘れもの

去る七月中旬、中里村公民館前で、胃病検診がおこなわれた際、検診車の中に懐中時計を忘れていった方がありますのでおぼえ気づきの方は社会厚生課、衛生係までご連絡下さい。

子供の心を理解しよう

子供の食べるものを大人はみな食べたいとは思わない。大人の食べるものを子供はみな食べたいと思う。酒でもビールでもせんべいのような苦い薬でも、大人が飲んでいるとみなうまそうに見え、子供はどうかしてそれを飲みたいと思う。それを口にするまでは安心しない。子供とはそんなものである。

父親が晩酌する家ではよく父親だけにオカズの皿を二、三品多くつけているようだが、それはよくない。子供は時々横目で父親の前に置かれたうまそうなオカズをチラチラと見る。食べたい―。しかし、「子供だから」といって食べさせてもらえない。父親が食べ終った。やっと安心した。あきらめがついたのである。しかし、翌日の夕方になるとまた同じことの繰り返し―毎日々々そういう状態が続くのである。

そこで子供は、学校からたまたま早く帰ったとき、母親のいないのを見とどけると、直ぐ戸棚や冷蔵庫の中をあけて、かねて食べたいと思っていたものを失敬する。うまい―しかし、母親に気がつかれぬように少しずつやめる。子供はそれで安心なのである。しかし、そういうことをしていると、いつのまにか盗みぐせがついてゆく。

家の中でその欲望が充たされなければ外でそれを求めようとする。そして買い食いの癖がつき、次第に悪に染まってゆく。そのうち金が足りなくなるので父や母の財布から盗むようになる。それが癖になると、他人のものを盗むようになる。悪友ができる。そして、いよいよ悪の道に入ってゆく、とり返しのつかないことになる。やがて子供のそうした姿に気がつくと、父親も母親も狼狽し「どうしてうちの子供はそんなことをしてくれたんだろう」と嘆き悲しむ。小さい時についた悪い癖になかなか直らない。

私は敢えて言いたい。親はもっと子供の心を理解する必要がある。大人も子供も食卓では平等でなければならない。父の食べるものは、たとえ量は少なくてもいいから、必ず子供に与えるべきである。子供はそれで安心なのである。いつも父と同じものが食べられる子供のうれしさを察してもらいたい。

子供が他家に招ばれることを喜ぶのは、一人前の待遇をしてもらえるからである。大人の食べるものを食べさせてもらえるからである。

また、同じ家にいながら生活様式あまり区別し使用人視していると、子供の心にいつの間にか横暴な尊大な気持が忍び込み学校に行っては貧しい家の子供を軽視したり馬鹿にしたりしてやがて人に嫌われるようにもなる。また社会に出てもその気持はぬけず、人の長としての資格に欠け、やがては自分のことは棚にあげて人生を恨みやがて落伍者となる。すべては子供の時の家庭における習慣や両親の一挙一動が影響する。

子供は母の乳を呑んでいる時、その肌の暖かさに触れながら、母が歌う子守唄をきき、又話し声を自然に聴きながら育ってゆく。"三ツ子の魂百まで"という諺は正しい。激しいことばでいつも喧嘩したり、子供を叱りつけたりしていると、何も分からぬと思っている乳呑子にその影響が出てくるのである。感謝親切、思いやり、礼儀、などの徳目は、家庭で養われなければならず、学校教育では、その補助的効果しか期待出来ないのではないだろうか。

すした言葉などから子供の性格が形づくられてゆく。学校教育は知能を開発する面では役に立つが、性格をつくる面においては家庭に及ぶものはない。

一日二十四時間のうち、三分の二は家庭で過ごしており、学校にいる時間は三分の一でしかない。昔の人が言ったように、眠っている間も教育であることに間違いはない無言の教育である。"三ツ子の魂百まで"ということを深く考えると、私共はよほど注意して子供に接しないと思わざる失敗をすることになる。子供を教育する前に、自分を教育することが大切なのではないか。昔の人は"無為にして化す"と言ったものである。

第十五回村民運動会

第四チーム五連勝ならず

去る八月二十三日、田沢校グランドにおいて、村主催、公民館主管のもとに、第十五回村民運動会が盛大にくりひろげられました。

この運動会は、村民の親睦融和を図り、体育レクリエーションを通じて、心身をきたえ、民主的で明朗な村民の気風をつくろうという趣旨のもとに行なわれて来ました。

当日は天候に恵まれ、グランドコンディションも良く、初秋とは思われない暑さの中で、各チームの入場行進から始まり、祝砲と共に、競技が開始された。四連勝を記録する第四チームと本年優勝された第五チームは終始一位を争い、ついに第四チームは五連勝ならず、第五チームが、何年来の優勝をなしとげた。

なお一昨年より村内各商店より、歴大なる賞品を寄付していただき、各競技とも一層のもりあがりをみせました。大会総合成績は次のとおりです。

▽村民運動会総合成績

優勝	第五チーム
第二位	第一チーム
第三位	第四チーム
第四位	第二チーム
第五位	第三チーム
第六位	第六チーム

村内各商店へお礼

村民運動会にご協力感謝

去る八月二十三日に行なわれた村民運動会に際して、村内各商店より多大なる賞品をご寄付いただき、盛大のうちに無事終らせていきましたことを、紙上にて失礼ですが、厚くお礼申し上げます。なおご協力をいただいた商店はつぎの通りです。

▽応援賞

第一位	第二チーム
第二位	第五チーム
第三位	第四チーム

【写真は選手の入場行進応援の一コマ】

第一酒造株式会社、山城屋商店、田町屋鮮魚店、関屋商店、山口屋肉店、マルト鮮魚店、大津屋豆腐店、岡村屋菓子店、松屋金物店、中島時計店、碇屋金物店、上野屋豆腐店、山徳商店、東京堂、仲林薬局、貴宝堂時計店、堀口電機、外山菓子店、だるまや、上原電器店、田代屋商店、山田屋酒店、城田呉服店、小林時計店、幸楽、大島はき物店、上原商店、丸伊旅館、ひさご、カネマス、米本そば店、松葉屋綿店、中津屋商店、和泉屋セトモノ店、初美屋菓子店、大丸屋食堂部、上村屋商店、岡村ハキモノ店、佐藤モータース、桑原モータース、林屋旅館、富士屋ハキモノ店、都屋時計店、オカダ屋菓子店、山崎商会、魚ふじ鮮魚ら食堂、角屋食堂、福田屋商店、上原米店、西山写真館、三津屋家具店、いこい食堂、三愛肉店、ふじや食堂、広田屋商店、マスヤ書店、日高屋新聞店、吉乗新聞店。

お知らせ

越後田沢郵便局

◎郵便の事故はすぐ郵便局へ

・郵便が受取人に届かない

・着いたが中身がない

・だれかが封を開いた形跡がある

こんなときは、すぐに郵便局で事故調査の請求をして下さい。郵政監察局が事故の内容を調査し、結果をお知らせするなど責任をもって処理をしてくれます。

◎たいせつな郵便を受箱で

たいせつな郵便物を安全に受取るために、必ず郵便受箱をつけましょう。

郵政省では、昨年から五ヵ年計画で「全戸に郵便受箱をつけていただく運動」を行なっています。

最近は、大型の郵便やるすの家、ドアにすき間のない家などがふえてきたためが郵便受箱は"必需品"になってきました。受箱がないために郵便を配達することができず、何回も行ったり、来たりする例がふえてきています。

郵便局では、郵政省標準規格の受箱（大型の封筒や新聞のはいる）を一個千百円であっせんしています。

見本もありますから局へご相談ください。

身のまわりの罪と罰

◎他人の手紙を勝手に読むと

他人の手紙を勝手に開いて読むと、一年以下の懲役か一万円以下の罰金、隠すと六ヵ月以下の懲役か禁固、又は千五百円以下の罰金が科料、ただし告訴が必要。刑法一三三条一三五条等

◎事実でも他人の名誉を傷つけると

世間論議で「ないしょだけどAさんは方引でつかまったそうよ」と言えば、それがほんとうのことでも名誉毀損で、三年以下の懲役か禁固、または五万円以下の罰金、ただし告訴が必要。刑法二三〇条、二三二条。

中里文芸

―八月投句―

えつお

出癒そろう道さわやかに出勤す
蟻の通子寄の残し松をよぎる　キクノ

水漂の糞合に鯉の池静か
豪雨引きする身に泌み入る蝉し　ぐれ　栄山

まどしらむ朝がほの咲く庭そうじ
さけかばんにはかに重せみし　ぐれ　おのえ

受話器耳に暑し怒りをおししづめ
思考のない日課ドスント吹く秋　風　土牛

涼風に波戯れて蒼い海の乱舞
熱き砂に小さき木倫の肌を灼く　淳子

たまゆらの胸の去就に白雨来る
紫陽花果つ幾千の蝶のかばねとなり　春柳

盆三日心傷きなく踊りけり
新設のプール裸で合図まつ　由記

突っ走る炎暑スピード魔の瞬間
夕立の雨宿りせば遠き友の家　大泉

手花火や娘は母の下駄小さき履き
汐の香に染まり日焼け旅の妻　開史

酷暑のまだ続くらし蚯蚓泣く
スモッグの木蔭生へる夜の蝉　海人

炎天に肥切れの日の目立ちけり
休校の庭木に蝉の鳴噺りり　みち

命惜しむ蝉羽根一ばいに日々を鳴く
蚕女の背Uの字を海に灼く　峰月

病む心をつきつめてなほ蝉の声
せがまれて子と蚕追う今日の幸　福